

平成 27 年度 舢倉島夏期総合診療実施報告書

平成 27 年 8 月 12 日
舢倉診療所長 竹田 義克

平成 27 年度の舢倉島夏期総合診療は石川県、輪島市の共催により平成 27 年 8 月 1 日（土）、2 日（日）の両日にわたり実施されました。関係者の方々のご尽力により予定通りの日程で無事に終了した。お力添えをいただいた関係者の皆様に深く感謝するとともに、ここに本年度の実施状況を報告致します。

1. 趣旨

専門医療の機会に恵まれない離島の住民に対して「耳鼻咽喉科、整形外科、眼科、内科、特定健診」診療を実施し、もって舢倉島住民の保健医療の向上を図る。また今年度はこれらの健診に加えて去年に続いて、便潜血検査による大腸癌検診、新たな試みとして PSA 検査による前立腺癌検診を行った。

2. 日程

平成 27 年 8 月 1 日（土）午後 1 時～午後 5 時

8 月 2 日（日）午前 9 時～正午（眼科は午前 11 時～午後 2 時）

3. 診療科目、場所

石川県輪島市海士町所属舢倉島出邑山 1-4 舢倉島総合開発センター

耳鼻咽喉科：コンピュータ室

整形外科：レントゲン室

眼科：事務室

内科：診察室、保育室

特定健診：保育室

大腸癌検診：受付ロビー

前立腺癌検診：受付ロビー、保育室

受付：玄関ロビー

4. 診療従事者

耳鼻咽喉科	小森 貴	医師（小森耳鼻咽喉科医院）
	寛永 淳子	看護師（県立中央病院）
整形外科	庭田 満之	医師（公立松任石川中央病院）
	木村 蓉子	看護師（市立輪島病院）
眼科	山本 ひろみ	医師（やまもと眼科クリニック）
	上野 文恵	看護師（県立中央病院）
内科	堀田 祐紀	医師（心臓血管センター金沢循環器病院）
	桑原 陽祐	医師（市立輪島病院）
	深田 和博	看護師（心臓血管センター金沢循環器病院）
特定健診	濱高 廉夫	臨床検査技師（市立輪島病院）
	飛岡 香	保健師（市立輪島病院）
血圧測定	坂下 智子	看護師（心臓血管センター金沢循環器病院）
レントゲン撮影	山崎 亮太	診療放射線技師（市立輪島病院）
受付	宮崎 高裕	室次長（県庁地域医療推進室）
	橋本 洋文	専門員（県庁地域医療推進室）
	安井 恵理子	主事（県庁地域医療推進室）
	外 忠保	庶務係長（市立輪島病院）

	蟹由 英紀 施設管理係長（市立輪島病院）
診療補助	石田 将路 医師（県立中央病院）
	高川 真伍 医師（県立中央病院）
	新田 歩 医師（県立中央病院）
	富木医療器株式会社、株式会社イデックより合計 3 名
運営	竹田 義克 医師（舳倉診療所）

5. 受診状況と問題点・今後の改善案

平成 27 年度は、のべ人数 208 名、実人数 75 名の方が受診された。各科の受診件数を下記に示す。

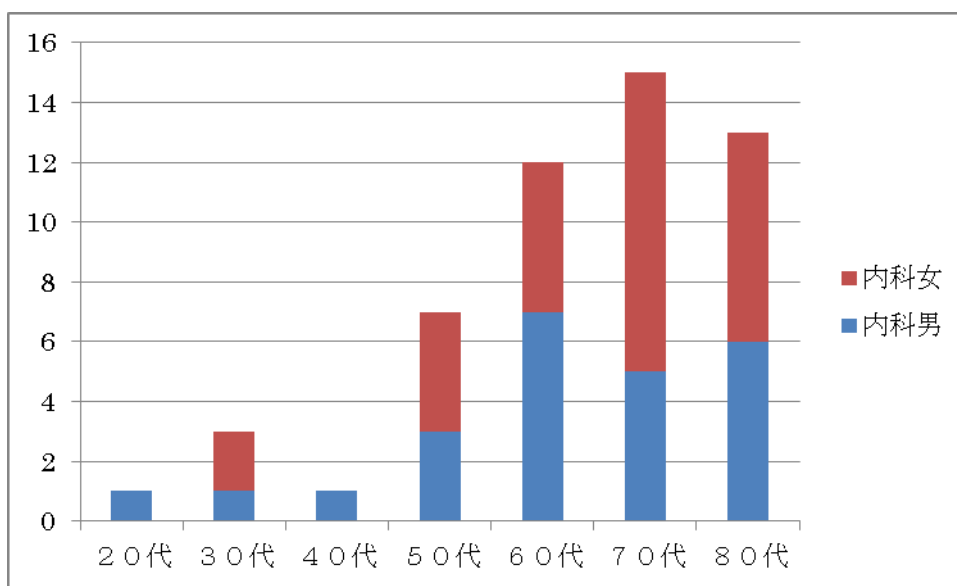
	内科	耳鼻科	眼科	特定健診	大腸癌 検診	整形外科	前立腺癌 検診	合計
27 年度	52	20	19	38	28	31	20	208
26 年度	40	20	16	28	16	32	None	152
25 年度	46	27	14	17	None	35	None	139
24 年度	46	23	8	18	None	None	None	95
23 年度	50	23	12	18	None	27	None	140
22 年度	46	28	25	13	None	33	None	145

※ 眼科は 8 月 2 日のみ

全体の傾向としてはのべ受診人数、実人数はともに増加した。（H26 年度 65 名⇒H27 年度 75 名）

受診人数の増加に関しては内科健診、特定健診、大腸癌検診、前立腺癌検診の受診者数が増加している。昨年の大腸癌検診で、癌患者を早期発見できたことで、健診の重要性を島民が再認識したものと考えられる。同時に、前立腺癌検診が特定健診と一緒に 1 回の採血で施行できることの簡便さもあって、複数の項目を受診する傾向が高まったことも延べ人数の増加に寄与していると考えられる。また実人数の増加は、今回若い世代にも健診を受診して頂いたこと、また普段は診療所を受診されない方も受診するようになったことが挙げられる。次項より各科の受診状況について考察する。また、各科の受診状況をグラフにまとめたので参考にされたい。

<内科>

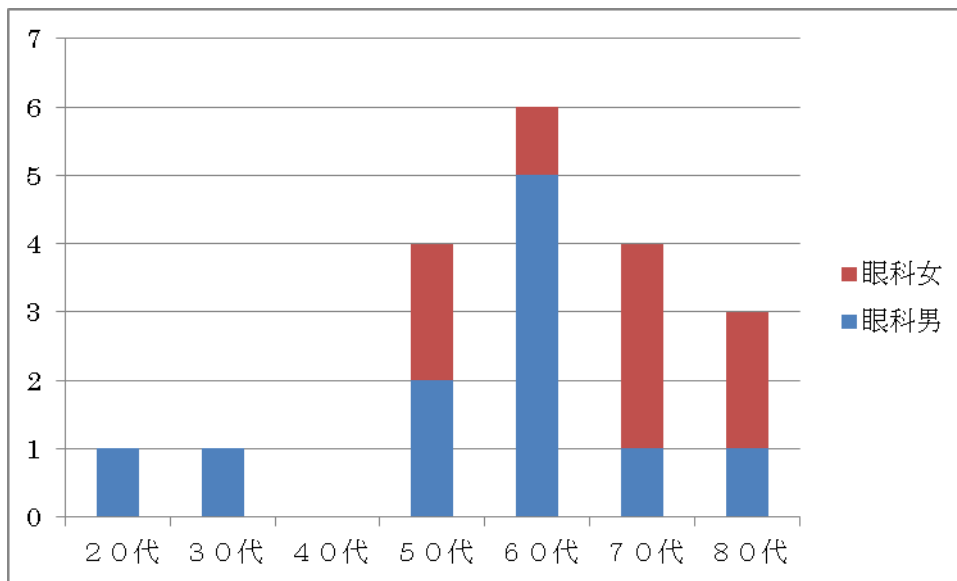


内科は昨年度同様 50 歳以上の年代で概ね高い受診率を示している。また今年度は若い年代にも積極的な受診を勧めた結果、受診人数の増加につながったものと考えられる。若い年代から健診を行う事で、疾患が起こってから治療や予防をするのではなく、1 次予防をしっかりと行っていく事が高度な医療へのアクセス

が悪いこの島においてとても重要な事である。実際、内科健診において、30代でも治療介入の必要な異常を認めた。今後も若い年代から積極的に健診受診を勧めていくべきだと考える。

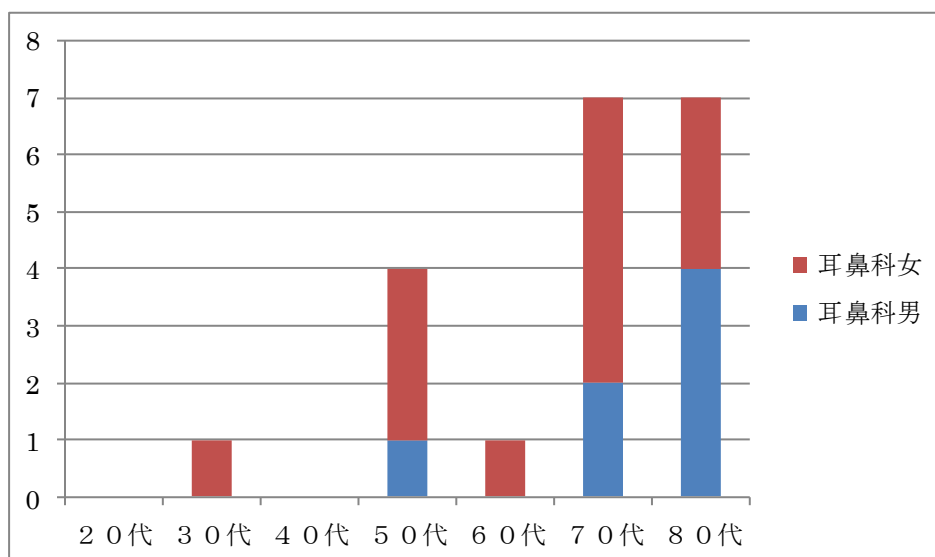
一方、島民の高齢化が進んでおり、心疾患の罹患率は増加している。特に高齢化に伴う弁膜症性疾患の増加は顕著であり、普段専門的な検査を受ける事が出来ない島民にとって症状の出ないうちから疾患を把握し、重症化を防ぐことが出来ているのは内科健診が継続して行われているからだと考えられる。当診療所では、任期が半年であり島民の経過を一人の医師で追うことが出来ないが、島民一人一人のサマリーを代々の医師が書き足しながら作成しており、それを参考にして受診の必要な方のピックアップをすることが出来た。今後もサマリーを活用し、一度健診を受診し異常を指摘されている方に関して継続的に健診で follow をして行ってほしいと思う。

<眼科>



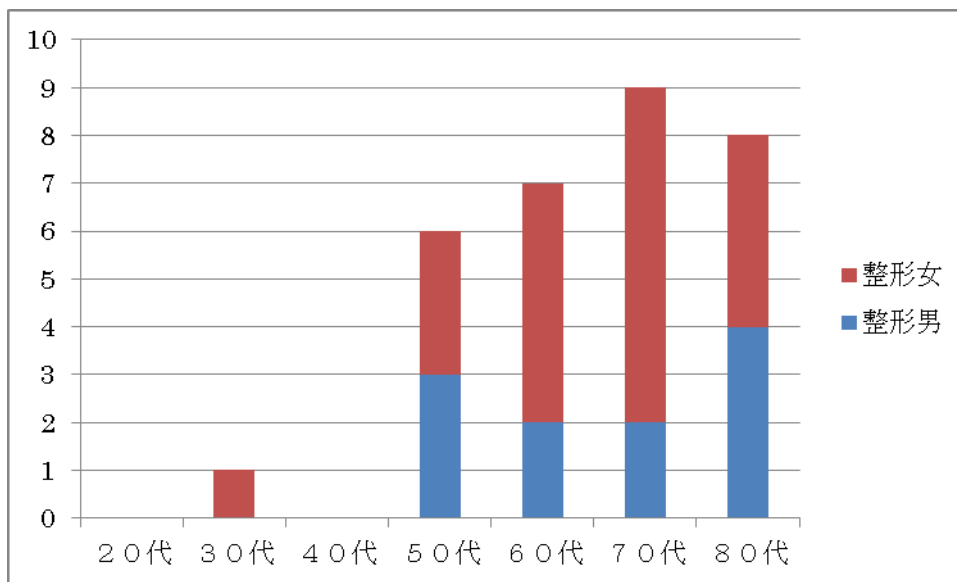
眼科受診者数は、3日の11時から14時までの間と少ない時間設定で、尚且つ沖休みでなかった中である程度の患者数を確保することが出来た。今年度は島民台帳と島民サマリーを活用することで、眼科疾患を抱える患者や基礎疾患に糖尿病や高血圧を抱えており眼科受診が望ましい患者を事前に抽出することが可能となった。結果として、個別に受診を奨励することが可能となり、昨年・一昨年を上回る受診人数を得ることが出来た。検診である以上、本人の意思に基づき行われるものであるが、必要性の高い人にはこちらからも積極的にアプローチする事が大切であると言える。

<耳鼻科>



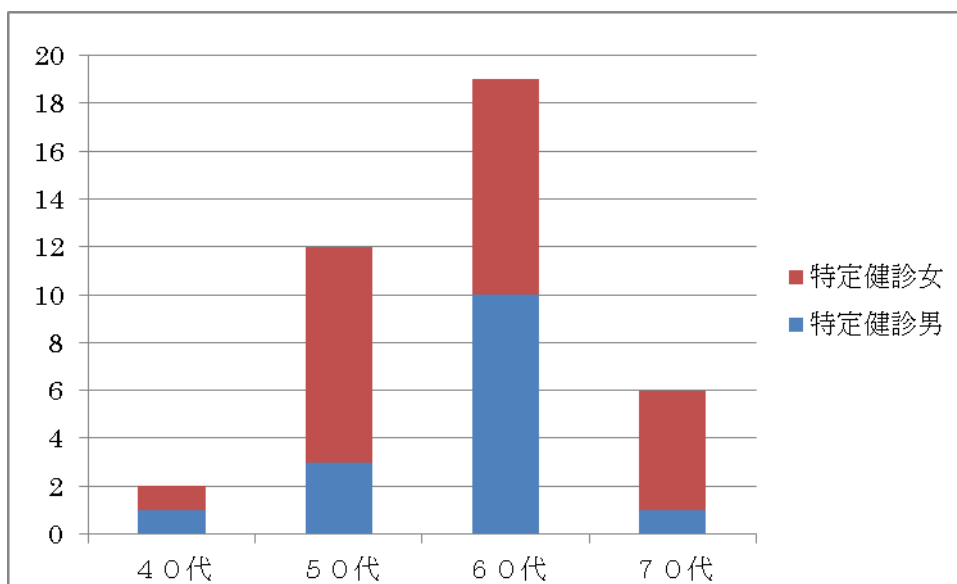
耳鼻科は高年齢・女性で受診者が多かった。海女漁という舢倉島特有の背景を反映したものと考えられる。耳鼻科の受診人数は年々減少傾向にあるが、現在の受診者の年齢層を鑑みれば今後はゆるやかに減少傾向が続くと推測される。しかし、舢倉島には20-40歳代の海女もおり、そのような自覚症状の少ない若年層のうちから定期的な受診を奨励していく事が、今後の課題であると感じた。また喫煙者に対しての喉頭がんスクリーニングとして受診者を増やす努力も必要と考えられる。

＜整形外科＞



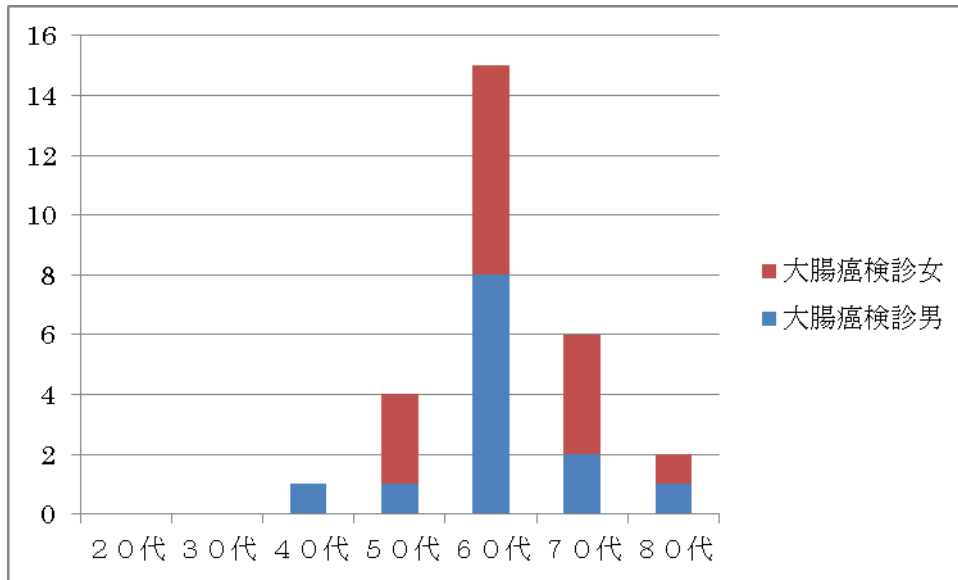
整形外科は各診療科の中で内科に次ぐ高い受診率であった。島民数の減少が進む中、受診者は1名の減少にとどまっており、島民にとって整形外科の総合診療の重要性を如実に表す結果となった。年齢分布も各年代に広がっており、力仕事を基本とする島民にとってどの世代においても必要な診療科だと言える。

＜特定健診＞



特定健診の受診者数は28名→38名と大幅に増加した。島民の認知度も上昇したことに加え、対象者に対して積極的に受診を推奨したことが増加の要因と考えられる。今後も対象者全員の受診をめざし、島民台帳を参考に各対象者への積極的な呼びかけを続けていってほしいと思う。

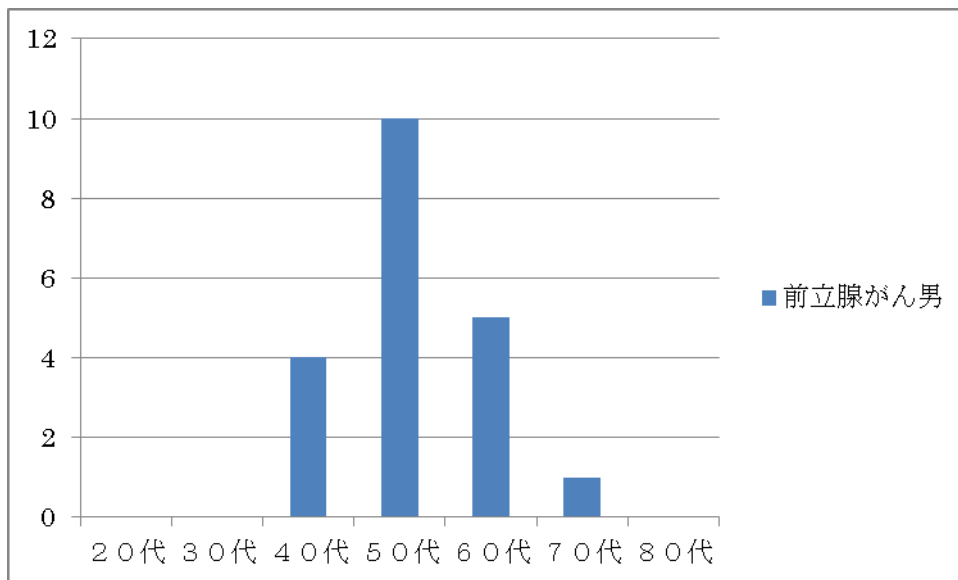
<大腸癌検診>



昨年に続いて行った、便潜血検査による大腸癌検診は28名の受診となった。

2日間にわたって事前に島民自身で便を採取しておく必要があるため手間がかかるが、住民は真摯に取り組んでくれた。昨年度の検診で大腸癌が実際に早期で見つかった方もいたため受診者数が増加したものと考えられる。まずは胃カメラを施行していない現在において、侵襲が少なく比較的簡便に出来る便潜血検査ならば受診したいという希望が大きかったので今後も継続していくことが望ましいと考える。

<前立腺癌検診>



今年度始めて行ったPSAマーカーを用いた前立腺癌検診は20名の方が受診した。

特定健診と同じ採血で施行できることもあり簡便なため多数の方が受診されたと考えられる。普段泌尿器科的な診察を受けることが出来ない島民において、近年増加傾向の前立腺癌をスクリーニングすることは極めて重要と思われる。IPSSスコアを同時につけることによって、前立腺肥大症の患者もスクリーニングすることが出来今後も継続していく事が望まれる。

6. 各科診療内容

<内科>

昨年度より引き続き、内科健診は心臓健診として堀田医師に担当して頂いた。島の高齢化および高血圧・

糖尿病罹患率の高さより、循環器疾患合併者が多く、専門的視点からの診療がますます重要になってきていると思われる。H21 年度から実施しているが、毎年大好評であり、今年度も 52 名と多くの受診があった。市立輪島病院桑原医師には堀田医師の診療補助について頂いた。受診希望の島民には事前に胸部レントゲン撮影と心電図記録をしておき、また当日は身長、体重、血圧測定を施行し、日々の診療と処方内容確認のため、全例島民サマリーを参照頂いた。有所見者には心エコー検査を施行し、精査頂いた。また、下肢の血管ドップラー超音波検査も併せて施行して頂いた。

今年度より心電図を内科の診察室に置くことで診察の際に再度心電図が必要になった場合にもスムーズに検査を施行することが出来た。ぜひ来年度もこの方法が望ましいと考えられる。

結果では、目立った異常所見として弁膜症および心拡大、不整脈が挙げられる。そのうち、3 名の患者でカテーテル検査等の精査を必要とする方がいた。また、事前に記録した心電図で不整脈を認め早期に治療介入できた方や若年者で今まで気づかれていなかった不整脈を発見することが出来た。その他、不整脈のある方の薬物治療の方針やカテーテル治療を受けた受診者の治療後のフォローアップの予定など、専門的視点から治療方針の指導を頂いた。

<眼科>

昨年度に引き続き、今年度の眼科健診も山本医師に担当して頂いた。昨年度と同様、センター内事務室を暗室として使用し、無散瞳眼底カメラと手持ち眼圧計を借用して頂いた。また、カメラ設置のため富木医療器とニデックの業者の方に来島して頂き、準備から眼底撮影、視力測定までご協力を頂いた。無散瞳眼底カメラは撮影にかかる時間も短く、散瞳薬も不要であり、以前薬剤アレルギーなどで散瞳眼底検査ができなかった方も眼底を観察できるということで、限られた時間の中での健診には非常に有用であると思われた。

結果、受診者は 19 名で、高血圧眼症、眼底出血、糖尿病性網膜症が今回の健診を契機に診断された。普段の診療において、なかなか専門的な診察・方針決定が難しい中で、専門医にしっかりと診察して頂いたことは、受診者・診療所双方にとって非常に有益な事と考えられた。島民の年齢・高血圧・糖尿病有病率を考慮すれば受診者を増やす事より大きな成果が期待されるだけに、今後も更なる参加者増加に向けての対策が引き続き必要である。

<耳鼻咽喉科>

耳鼻咽喉科は昭和 58 年度から今年度に至るまで毎年総合診療に参加して頂いている小森医師に担当して頂いた。総合診療全般においても様々な面で支えて頂いている。診療内容は喉頭ファイバーでの咽喉頭の観察、および鼻腔内、耳腔内の観察等である。舢倉島住民の女性のほとんどは海女であり、かつてはサーファーズイヤーズ（外耳道の変形）や外耳炎が多くみられたが、小森医師によりシリコン性の耳栓が導入され、以降、サーファーズイヤーズの進行は止まっているとの事である。そのため、健診の主目的が喉頭癌検診に変わりつつあるとの指摘を小森医師より頂いた。喫煙者が多く、高齢化も進んでいる為癌の検診はとても重要な位置づけになってきている。幸いなことに今回の健診では新たな喉頭がん患者は認めなかった。ただ、依然として海女の耳鼻咽喉科領域の訴えは多く（鼻が通らない、耳抜きすると痛い、耳が痛い、聞こえにくい、めまいがするなど）、年に 1 回の耳鼻咽喉科健診は非常に重要であると言える。また、島民の中ではすっかりお馴染みであり、和やかで笑いにあふれた診療風景から、長年この総合診療に参加して頂いている小森医師と患者間の厚い信頼関係が伺えた。

20 名の受診者で異常所見の内容は、外耳道炎や、鼻炎、老人性難聴など軽症のものが大多数であった。最近、舢倉島にも新たな若い世代の海女さん達が働き始めており、これらの人達は耳栓を使用する習慣が無い。若い世代への健診受診を促し、将来のために、症状の無い頃から健診を受診し小森医師より耳栓の使用方法、有症状時の対応などを聞く機会として健診の場を有効活用していただくことが今後の課題であると言える。

<整形外科>

整形外科は、庭田医師に担当して頂いた。島民の高齢化が進み、肩・腰・膝などの痛みを訴える島民が非常に多く、日常診療では的確な治療およびアドバイスが行えていないと思われた為、7年前から実施されているものである。昨年同様レントゲン室で問診を行い、適宜レントゲン撮影を施行して一人一人の症状にあわせた生活上の注意やアドバイス、治療をして頂いた。レントゲン撮影は市立輪島病院の山崎診療放射線技師にご協力頂き、スムーズで質の高いレントゲン撮影を実施する事ができた。所長自身、整形外科領域の撮影はやはり困難で上手に撮影できない事も多々あり、大変有意義であった。

受診者 32 名で、変形性腰椎・股関節・膝関節・肩関節症、頸椎症、腰部脊柱管狭窄症、肩関節周囲炎、腰椎すべり症、腱鞘炎、アキレス腱断裂、ばね指などが認められた。処置や注射を実施された方は 8 名（25.8%）であった。今後手術を勧められた受診者もあり、今後本人と相談の上後方病院を受診して頂く方針となった。その他にも対症療法（内服加療）を提案して頂き、詳細な生活指導・リハビリ指導なども含め、専門的なアドバイスを頂いた。受診者にも非常に好評であり、来年度以降も是非整形外科診療を継続して頂きたいと切に願っている。

<特定健診、保健指導>

昨年度に引き続き、本年度も輪島市の特定健診を舳倉島総合診療の一部として開催した。対象者は国民健康保険、船員保険加入者の 40～74 歳の方で、実施項目は問診、身長、体重、腹囲、血圧測定、検尿、血液検査、保健指導である。市立輪島病院外庶務係長、蟹由総務係長、濱高臨床検査技師、飛岡保健師にご協力頂き、保育所を使用し、測定・採血を行った。

受診者は女性 23 名、男性 15 名となった。昨年同様、今年度も特定健診の受診者の多くは普段診療所や病院を定期受診する機会のない方たちもあり、特定健診の意義は果たせたのではないだろうか。また今年度で 6 回目の開催になることもあり、広報の段階でも「特定健診だけは一応受けておくかな」という声も聞かれた。特定健診の認知度が少しずつ上がっており、島民の健康意識の向上に貢献していると感じた場面であった。

今年度は検診当日の保健指導を飛岡保健師に担当して頂いた。昨年度の検査結果や住民サマリーなどを活用し、専用のパンフレットを利用しながらの分かりやすい丁寧な保健指導に住民も新たに生活を改善していこうと心を新たにしていた。島民からは普段の生活を見直すいい機会になったという声や、今の生活で問題ないと言われて誇らしかったという声も聞かれ自分の健康は自分で守るという意識改革につながり大変有意義であった。ぜひ来年以降も保健指導を継続して取り入れていただきたいと願っている。

一方で当日になって受診票が無いというケースや、保険証が島にはないというケースも散見された。昨年度から受診されている方でも、受診票を持ってきていない場合があり「受診票は住民票のある方の家に届くため、受診の為に必ず持ってきてもらう。一度島で確認し、分かりやすい場所に保管しておく」ということを広報する必要がある。また保険証に関しても、普段の島での生活において使うことがほぼ皆無な為、輪島に置いてきてしまっている。この機会に輪島市の方から島民の保険証を確認したい言う要望があり、来年度からは 5・6 月の時点での広報の時点で保険証を島に持ってきてもらうようアナウンスをしっかりと行う必要があると言える。

<大腸癌健診>

昨年度に引き続いて大腸癌のスクリーニング検査として便潜血検査を実施した。

事前に広報し、希望者を募っての検査であり、便を採取するのに 2 日間かかること、自分で便を採取することの煩雑さがあるにも関わらず、検査人数は 28 人と大幅に増加した。その中で 3 名に異常が見つかり、全員が 8 月中に輪島病院や石川県立中央病院などで大腸内視鏡検査を受けて頂く方針となった。それぞれの病院の地域連携を活用することで、診療所から事前に検査予約を取ることが可能であるため患者本人が検査予約の為に離島する必要が無くなった。

今回、前回の検診で大量の海藻摂取で偽陽性となることがわかっており、検体の容器を配る事際に海藻の摂取を控えるようアナウンスを行った。まだ陽性者の結果は分かっていないが、偽陽性の減少の為に陽性者

が減少した可能性もあるのではと考えている。今後も舳倉島での高齢化・喫煙率の高さ・大腸内視鏡検査受診への敷居の高さを考慮すると、島民全員の大腸癌健診参加を促す働きを進めていくことが重要であると考えらる。

<前立腺癌検診>

今年度新たに PSA マーカーを用いた前立腺癌検診を実施した。特定健診と同時に採血を行える簡便さもあり、受診者は男性だけの対象であるが 20 名を確保することが出来た。その中で癌の疑いがあり精密検査を必要とした人は 0 人であった。これは、cut off 値を全国的に用いられている 4ng/ml としたことも影響していると考えられる。県立中央病院泌尿器科の重原医師と相談し cutoff 値を設定したが、金沢市では 2ng/ml cut off 値としており今後実施する場合においては再度検討する必要があると言える。今回も 2ng/ml 以上あった場合は今後も診療所で採血した際に PSA 値を follow していく方針とした。

また、問診票で IPSS スコアも記録しており、前立腺肥大症のスクリーニングにも有効であると考えられる。排尿関連の症状を訴えられる島民は多く、そうした人を積極的にスクリーニングし専門医へ紹介するために有用であった。実際、健診で IPSS スコアが高かった人が 9 名（10 点以上）おり、専門医への受診を勧めた。今後も毎年でなくても良いと思われるが、定期的に続けてほしいと思う。

7. 反省点

1 日目終了後に反省会が行われ、様々な意見が交わされた。以下はその要点とそれに対する所長の私見およびその他の問題点である。来年度以降の実施に役立てて頂ければ幸いである。

① 受付・待合の問題点と対策

昨年同様、開始前より受診者が殺到し、開始直後には案内などで混乱を生じる事も見受けられたが、今年度より事前に各診療科ごとの受診予定者リストを作成し、それを参考にして受付をできた事で多少スムーズに進められたと考えられる。ただ、内科、特定健診を両方受診する方がいる場合どちらかの片方の受付を済ませてから先に血圧・身長・体重測定に進まれる方がおり、測定をした後に再度内科・特定健診の受付をして、2 回測定を行われる方もいた。途中で気づきお互いのリストを確認して、両方の受付をすましてから測定に進んでもらうことにしたが、混乱した場面があった。特定健診は輪島市が主催するもの、内科健診は県が主催するものであり事前に情報を交換することはなかったという事だが、島民の高齢化が進みまた、若い年代からの内科健診の受診者も増えた為、両方受診する方が大半を占めるようになってきている。受付業務においても両社が事前に協議をし、スムーズに行えるよう準備していければ良いと思われる。

昨年度に引き続き測定、特定健診診察、採血をどの順番に進んでいいのかわからない方が多数いた。今年度は特定健診の診察の場所を以前心電図を撮影していた場所に移したため待合のスペースが混雑することはなかったが、その一方どちらにすすんでいいか分からなくなる方も多数いたとの事だった。案内役を設置する、もしくは進む順番を指定するなどの必要性があるだろう。来年度再度検討して頂きたい。

② 設備上の問題と対策

(耳鼻科のファイバー使用+胸部レントゲン+遠心分離機の使用) が重なるとブレーカーが飛ぶ危険がある事が H24 年度より判明している。耳鼻科のファイバーの使用と胸部レントゲンは部屋も隣同士なので耳鼻科健診の補助スタッフが確認しながら使用時間が重ならないように注意する必要がある。

H27 年度は遠心分離のタイミングは気にせず使用していたが、ブレーカーが落ちることは無かった。来年度以降も耳鼻科ファイバーと胸部レントゲンスタッフの声掛けで機器の使用が重ならないようにすれば問題は生じないと思われる。

また、今年度は特定健診の診察室と保健指導のスペースを以前心電図のあった休憩室の一部に設置した。そのため、プライバシーを確保することが出来たが、場所が離れたことによりどこで診察を受けていいのかが分からなくなる場面もあった。先ほどの繰り返しになるが、案内役の設置などの対策を検討してほしいと思う。

③ 輪島市の特定健診：

広報での再三の呼びかけにも関わらず、当日受診票も保険証も持ってこない方が今年度も数名いらっしゃった。

しかし、数人程度であれば比較的混乱も少なく対応できていたので、今後も4月から毎月の広報で受診票と保険証の持参を徹底することが大切であると思われる。また、事前に申し込み者を把握することで、各島民の保険の種類も確認することが出来た。島民の中には、船員保険の方もおり、また対象年齢ではあるもののひざの手術後で後期高齢者扱いとなっているため受診できない方もいた。今後も7月中旬までには受診者リストを作成し、保健師と協力し事前に確認することが必要である。

また、保健指導において保健師だけでなく、栄養士の方にも保健指導をして頂ければさらに効果的な指導になるという意見もあった。高血圧、糖尿病の方が増えている中で、なかなか指導を受ける事の出来ない島民にとっては貴重な機会となる。ぜひ来年度は検討して頂きたい。

特定健診の指導の際に、検尿結果を載せることが出来ればよかったという意見も聞かれた。検査技師一人では作業も多く困難であり、診療補助を一人配置するなど方法を検討して頂ければと思う。

④ プライバシーについて

整形外科診療については場所の関係上、例年レントゲン室の一面で行う事になっている。整形外科診療は時間がかかり、時間とともに待合時間なども長くなる。また、レントゲン撮影は内科受診にも必要である事から、昨年度同様レントゲン撮影と整形外科診察を同時進行で行う事とした。プライバシー保護の遮蔽カーテンについては、テーブルクロス用の布を壁と放射線防護の仕切りとの間に貼ることで対応した。特に不都合は聞かれなかったので予算の面からもこれで良いように思われる。

内科健診の診察室の入り口にもプライバシー保護のカーテンを用意しておくことが望ましいと思われる。今年度、当初は用意しておらず、その場にあったもので（松葉づえ、毛布）作成し代用した。来年度は事前にテーブルクロス用の布等で作成して頂ければと思う。

⑤ 内科健診の間診用紙について・ドップラー血管エコーについて

スペースが狭く所見を記載できないのご指摘を頂いた。堀田医師が新しい案を検討して頂ける事となった。また、内科健診の際に両上肢の血圧を測っているが、血圧の左右差があった際にはっきりと分かるように記載してほしいと要望があった。来年度の間診用紙で検討して頂きたい。また毎年堀田先生に持参して頂いているが、健診用に下肢の血管を確認するドップラーエコーを診療所で購入し、日常診療でも使えばよいと思われる。来年度に向けて検討して頂きたい。

⑥ レントゲン用のカセット

整形外科用のレントゲンカセットが大は2枚あるが、小は1枚であり効率が悪かった。できればもう一枚購入を検討して頂きたい。

8. まとめ

本年度で舳倉島総合診療は34回目となった。これまでこの総合診療が継続されてきたのは石川県、輪島市の協力があり、そして長年診療を支えてこられた先生方やスタッフの方々、さらには準備にご協力頂いた関係各位の情熱、ご尽力によるものである。この健診に対する住民の期待と信頼は大変大きく、専門的な診療を受けられる総合診療は、舳倉島診療において根幹をなしていると言える。夏期舳倉島住民の人口構成を見ると、65歳以上が約半数、75歳以上の後期高齢者が約30%と高齢化社会となっており、この地域特有の職業による潜水に伴う風土病に加えて、生活習慣病、心疾患、動脈硬化性疾患の予防・早期発見、整形外科疾患も重要な位置を占めてきている。また特定健診、保健指導、大腸癌検診、前立腺癌検診に関しては、これからの島を支える若年者中年者の健康保持・増進にアプローチできる良い機会であり、今後も継続することを切に願っている。住民のニーズを明確に見極め、医療や保健など各方面と連携をとりながら、今後も総合診療を行っていく事が舳倉診療所長に課せられた命題と考える。

9. 謝辞

本年度も無事に舳倉島夏期総合診療を行う事ができました。参加して頂いたスタッフの皆様、ご協力頂

いた大変多くの関係機関、関係各位の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。この総合診療を通して、島民が自らの健康を意識する契機となれば幸いです。所長自身も日常診療を省みるとても良い機会となりました。今後の診療に今回学んだ事を十分に生かしていく所存です。またスタッフの皆様とお会いでき、とても良い2日間を過ごす事ができました。所長そして島民一同深く感謝致しております。

今後とも舢倉島島民の健康増進のためお力添えをいただきますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

舢倉診療所長 竹田 義克

平成 27 年度診療スタッフ集合写真（H27.8.2 出航前のニューへぐら前にて）

